

IEA石油市場レポートの概要（2017年7月13日公表）  
（代表部仮訳のため、正確にはIEAのホームページを参照）

1. 6月の世界の石油供給は、生産国の増産により72万バレル/日増加し、9,746万バレル/日となった。非OPEC加盟国が増産モードにしっかり戻り、1年前を120万バレル/日上回る供給量となっている。非OPEC加盟国の生産は、2017年に70万バレル/日、2018年に140万バレル/日増加することが見込まれる。
2. 6月のOPEC加盟国の石油生産量は、サウジアラビアの生産増や、減産を免除されたリビアやナイジェリアがより強気な生産を行ったことにより、34万バレル/日増加し、3,260万バレル/日となった。OPECの減産合意の遵守率は今年最低の78%に低下し、遵守率82%に改善した非OPECの合意国に抜かされた。
3. 世界の需要は、2017年第1四半期のさえない100万バレル/日増加の後、第2四半期に150万バレル/日の増加という劇的な加速があった。2017年全体では、需要は9,800万バレル/日に達することが見込まれる（先月のレポートから10万バレル/日の上方修正）。2018年には、更に140万バレル/日増加して9,940万バレル/日となることが見込まれる。
4. 5月のOECD加盟国の石油民間在庫は、原油と石油製品の輸入減により、600万バレル減少した。現在の在庫は、過去5年間の平均を2.66億バレル上回っている（4月の3.0億バレルからは減少）。速報値は、6月にOECD加盟国の在庫が緩やかに減少していることを示している。
5. 6月に原油指標価格は3-4ドル/バレル減少し、引き続き、OPECの減産合意の発表時に近い価格水準を維持している。ドバイ等の硫黄分の高い原油は供給の逼迫により、価格が上昇した。
6. 世界の精製量は、2017年第3四半期に8,100万バレル/日という記録的な水準（第2四半期から80万バレル/日の増加）に達すると予測される。第3四半期の増加の半分は米国の寄与である。精製の操業は、8月のピークから10月にかけて季節的に150万バレル/日減少する。